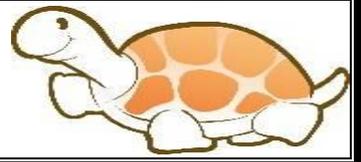


のこのこたより



令和7年8月 第124号

社会福祉法人晃宝会
特別養護老人ホームあじさい園 宝

住所：奈良市南肘塚町99番1

電話：0742-24-0878

fax：0742-23-0373

奈良で、アグネスチャンの講演会に参加。
1973年の夏、奈良ドリームランドのステージで見たアグネスチャン、52年ぶりとは思えない可愛らしさそのまんまだった。上智大学、トロント大学、スタンフォード大学で学び教育学博士号取得後、世界各国をほほえみ大使として訪問、現在ユニセフアジア親善大使として、子供の人権を守る活動をされている。
アグネスさんは6人兄弟の4番目、控えめな女の子。1人の姉は香港の大女優、もう1人の姉は香港大学医学部を香港初女性首席卒業。アグネスさんは中学生の時の障がい者施設へのボランティア活動がきっかけとなり、照れ屋でおとなしかったけれど、自分の意見も言えるようになり、まわりのみんなを楽しませるため歌をうたうようになった。

施設のことでも達は拍手はできないが大声で応援してくれた。まわりの目を気にせず恥ずかしいと思わずことも達の前で歌うことに無我夢中になった。エネルギーが発散し、心に余裕ができて、自分自身が楽になったことを実感したそう。

父は香港出身、母の故郷は中国の山奥の貧しい村、はじめて母の故郷へ帰ることが許された時、村中の人々がアグネスさんの歌をうたって迎え入れてくれた。歌は海を越え山を越え心を結んでくれることを確信し、歌手になることを決意、日本に渡った。

1985年24時間テレビの総合司会がきっかけでアフリカの現地を訪れ、エチオピアの現状を知った。骨と皮だけのやせ細った母にしがみつく幼児、車の窓ガラスには手のひらの膿と血、身体を覆う大きな音の黒い雲？ハエの大群だった。車からこぼれる麦を砂ごとむさぼりジャリジャリ食べる姿。

ある時、足の不自由な元兵士の12歳の少年と面会、彼は貧しくみじめな自分を笑いに来たのか、と言いつつ放った。明くる日、彼は昨日は言いすぎたと謝りに来て、親なき兄弟を救うためには8歳で兵士になるしかなかったと語った。

南スーダンではこどもの兵士を返してほしいと訴えた。ロシアと国境のウクライナドノンバス地方、毎日サイレンが鳴り響き、学校の地下の防空壕に一緒に逃げた。

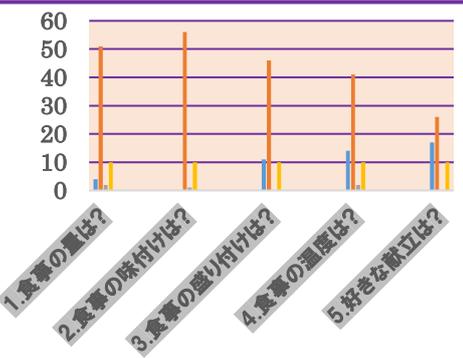
パレスチナガザの鉄ゲートは人は1人もいない、マイクから指しがあり中に入ると大きな犬がいっぱい現れ、無機質な世界にタイムスリップしたようだった。

私達は、同じ時間、同じ地球、同じ太陽と月を見ている同じ人間……。言葉は出ないが、アグネスさんのひと言ひと言を思い、心にだきしめた。

GHのご利用者様は、あじさいサロンに参加され、西村先生や地域の皆様と一緒に手話や歌を楽しみました。



奈良歯科衛生士専門学校より実習生さんが来られました。宝の森田・須川歯科衛生士指導のもとご利用者の口腔ケアや、口腔リハビリテーションを行って下さいました。



本末先生(けんどう倶楽部)健康体操開催！梅雨の蒸し暑い中たくさんのご利用者様が参加して下さい、先生よりたくさんパワーをいただきました。



短冊に願いごとを書いて、スタッフと一緒に笹に飾り、七夕飾りの前で記念撮影をしました。



今年度のお食事に関するアンケート結果です

- 食べたい料理のリクエスト
- 1位 お寿司
 - 2位 肉料理
 - 3位 野菜料理
 - 4位 フライ物
- おやつのリクエスト
- 1位 ケーキ
 - 2位 アイスクリーム
 - 3位 シュークリーム
 - 4位 おせんべい

お寿司が毎年一番人気です。手作りの助六や卵巻、散らし寿司等いろいろなお寿司をお楽しみいただいております。

いつもご協力、ご支援ありがとうございます。事前予約での面会を行っております。ご家族様のご来園お待ち申し上げます。

8月の行事予定
18日:あじさいサロン 14:00
22日:誕生日会 15:00

第13回運営推進会議開催！
「歯と口の健康習慣」にちなんで、認知症の方への口腔ケアの研修をしました。



第 100回 歯磨きの歴史①

口臭に悩んだ平安美女

国宝の「病草紙」という平安時代末期の絵巻物を知っていますか？「教科書で見た」という人も多いかもしれません。「病草紙」には、さまざまな病気に苦しむ人の様子が描かれています。その中に、楊枝を使っている女官の場面があります。

そのそばには、着物のたもとで口を覆う2人の女官も登場し、こんな説明文まで付いています。その内容は……。

「一人の美しい女がいた。女にひかれる男たちは彼女に近づこうとした。しかし、近づくと、とたんに鼻をつまんで逃げ出してしまう。耐えがたい口の臭さなのだ」この絵の題名は、そのものずばり、「口臭の女」。この女官は楊枝を使って、口臭を消そうと必死なのでしょう。じつにあでやかな着物を着て美しいが、本人、だいぶ気にしていて、歯ブラシで歯を磨いているようです。床に水を入れた椀が置いてあります。ちなみに、このころの歯ブラシは、房楊枝といって、繊維質の木の棒の片側を噛みほぐして房にして、それで歯をこするのです。左下に描かれた女は袖で鼻をおおっていますが、これは他の絵でもよく出て来る、「あー臭い臭い」ジェスチャーです。模写版では無表情ですが、オリジナルでは笑っていて、明らかに本人をバカにしている様子がかうかがえます。



800年前は便所事情なども悪くそこらじゅうがひどく臭かったなどと言われてはいますが、やはり上流階級の間では、口臭であるとかそういう臭いには敏感だったのでしょう。

口臭の原因として考えられるのは、口の中が不潔なこと。あるいは、むし歯や歯周病だったのかもしれませんが。口腔ケアが浸透している現代と違い、当時は、口臭にこれほど悩む光景はありふれたものだったのかもしれませんが。

はたして、楊枝は、口臭をやわらげる効果があったのでしょうか。きっとささやかだったに違いありません。なんだか、絵巻物に描かれた女官が気の毒ですね。

朝は神仏に祈り、歯の掃除

「起床後は、まず、自分の一生を支配する属星(ぞくしょう)の名前を七回唱えよ」そんな家訓を残したのは、平安時代中期の貴族・藤原師輔(もろすけ)です。ちなみに属星というのは、陰陽道で、その人の運命を支配するとされる星のこと。生年によって決まっていた。師輔は、朝、貴族がなすべきことを次々に挙げました。

「鏡で顔を見て、暦で吉凶を占い、そして楊枝を使い、西を向いて手を洗うこと」さらに「仏名を唱え、信仰している神社を念じよ」と続けました。

師輔は、冷泉天皇の祖父にあたる実力者。晩年は、貴族としての作法、儀式・年中行事について書き記し、後の九条流故実の祖となった人物です。どうやら平安貴族の間では、朝食の前に楊枝を使い、口中を清潔に整えることが、作法になっていたようです。

じつは、日本人は古来から神に祈る前に、口をすすぐ風習があり、それが歯みがきのルーツだという説もあるのですが、事実不明です。

